

なかよしのひけつ

新開 和心

わたしのいえでは、たまにあることをします。それは、よるのどらいぶです。

「きょう、どらいぶいく?」

しごとからはやくかえってきたおとうさんがきくと、

「いきたい、いきたい。」

と、わたしとおねえちゃんと、おかあさんがこたえます。おふろとごはんをいそいですませます。よるだから、しずかになるまにのりこんで、さっそくしゅっぱつです。

わたしは、よるのどらいぶがだいすきです。りゆうのひとつは、ひるとはちがうよるのけしきが見れるからです。よるのがっこうをとおると、いつもはひとがいっぱいいいて、あかるいのがっこうが、まっくらで、だれもいなくて、しずかにみえます。まるでねむっているみたいです。うみのちかくをとおると、いつもはきらきらげんきにひかっている、うみや、さくらじまが、つきのひかりにたらされて、ほやあつとやさしくみえます。やまのうえにのぼると、いえのでんきがいっぱいひかっついていて、だいやみたいにきれいです。まどから、よるのけしきを見るのが、わたしはすきです。

ほかに、よるのどらいぶがすきなりゆうがあります。それは、かぞくがなかよくなれるからです。どらいぶをしているといろいろななはなしをします。がっこうのことや、しごとのことや、たまに、わたしたちがちいさかったころのはなしもします。

「このみちなつかしいなあ。」

と、おかあさんがいいいます。わたしとおねえちゃんがあちゃんるときも、よるにないていたときは、どらいぶでねかせていたそうです。

それに、からおけもします。おおきなこえで、くるまからながれるきよくをみんなであうたと、きもちがすつきりします。

「あああ。」

と、おとうさんが、たかいこえでさけぶと、みんながけらけらわらいます。みんながわらうと、わたしはうれしくて、げんきになります。あしたもがんばろうというきもちになります。

たのしいことをかんがえて、わらわせてくれるおとうさん、なんでもはなしをきいて、まもってくれるおかあさん、わたしのために、しゆくだいはやくすませて、あそんでくれるおねえちゃん、いつもそばにいてくれてありがとう。

わたしのかぞくは、なかよしです。なかよしのひけつは、よるのどらいぶだとおもいます。だから、きょうもはやくかえってきてね、おとうさん。